

消防団実態調査アンケート 結果報告書

令和6年8月
笠間市消防本部消防総務課

目 次

調査概要	1
1. 回答者の属性	2
問 1: あなたの性別を教えてください。	
問 2: あなたの年齢を教えてください。	
問 3: あなたの消防団在籍年数を教えてください。	
問 4: あなたの職業を教えてください。	
2. 団動機と家族の理解	3
問 5: あなたが消防団に入団した動機は何ですか？	
問 6: 消防団に入団してどのように感じていますか？	
問 7: 消防団活動に対して家族からの理解は得られていますか？	
3. 消防団員の確保について	5
問 8: 新入団員の確保について、あなたの考えは次のうちどれですか？	
問 9: 団員確保の方法として、どのような手段を用いていますか？	
問 10: 団員確保の支障となっていると思われることがあれば教えてください。	
4. 分団の統合再編について	8
問 11: あなたの分団の人数は活動に対して足りていますか？	
問 12: 平日昼間に出動がかかった場合、あなたは出動できますか？	
問 13: 分団の統廃合についてどう思いますか？	
5. 消防団の車両について	13
問 14: あなたの分団に配備されている現在のポンプ車の性能に満足していますか？	
問 15: 今のポンプ車にかわる小型可搬ポンプ積載車の導入についてどう思いますか？	
問 16: 小型可搬ポンプ積載車の利点や懸念について自由に記載してください	
6. 消防団員の負担について	14
問 17: 消防団の行事について、負担を感じているものを3つまで選んでください。	
問 18: 消防団の行事について、重要であると感じているものを3つまで選んでください。	
問 19: ポンプ操法訓練について感じているものを選んでください。	
7. その他（自由記載欄）	19

調査概要

1 調査の背景・目的

消防団は、地域防災の中核的存在として重要な役割を果たしています。しかし、団員数や担い手世代の減少、社会経済情勢の変化など、消防団を取り巻く環境は急速に変化しています。このような背景から、今後の消防団の活動を持続可能にするためには、新たな体制づくりの検討が不可欠です。

具体的には、定数の見直しや組織の再編、消防団の活動内容の見直しなど、時代に即した柔軟な対応が求められています。そのため、本市では、現状の把握と将来の対策検討のために、全消防団員を対象としたアンケート調査を実施しました。

2 調査対象者

笠間市消防団員 545 人（令和 6 年 6 月 22 日現在）

3 調査方法

インターネット調査

4 調査期間

令和 6 年 6 月 22 日（土）～令和 6 年 7 月 13 日（土）

5 回収状況

回収数 401 票 回収率 73.6%

6 調査項目

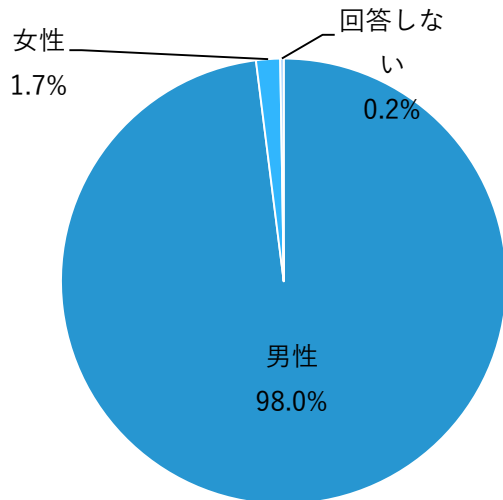
- ・ 入団動機と家族の理解
- ・ 消防団員の確保について
- ・ 分団の統合再編について
- ・ 消防団の車両について
- ・ 消防団員の負担について

7 集計上の注意事項

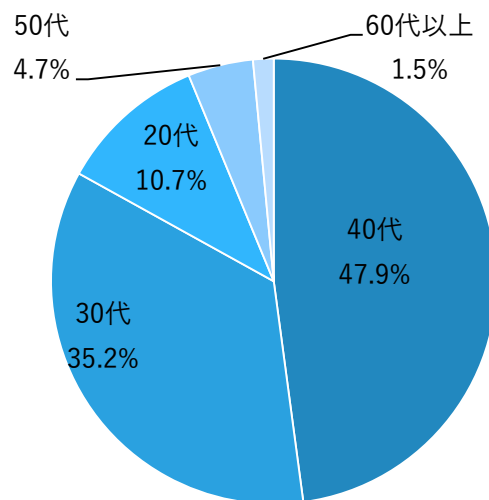
- ・ 比率は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 1 人の回答者が複数回答する設問があります。この場合、その比率の合計は 100.0%を上回る場合があります。
- ・ 自由記載の記述内容については、原則として原文のまま掲載しています。表現については、あくまでも記入者の主観であることを申し添えます。
- ・ 特定の個人名・団体名が判別できる表現については割愛、または一部修正しています。

1. 回答者の属性

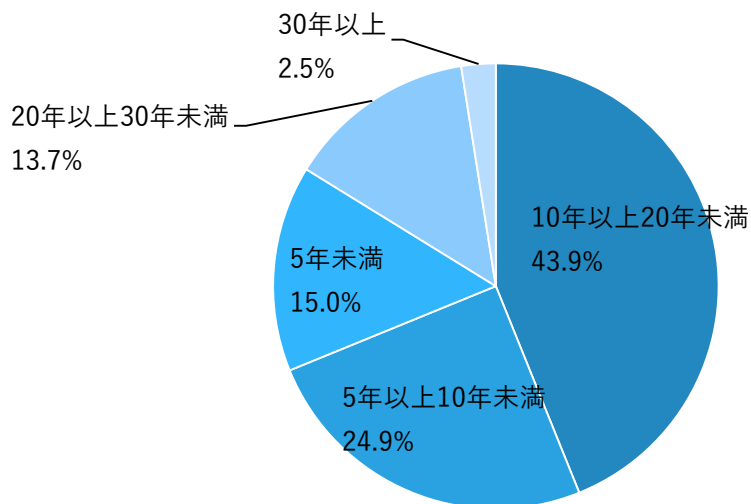
問1 あなたの性別を教えてください。



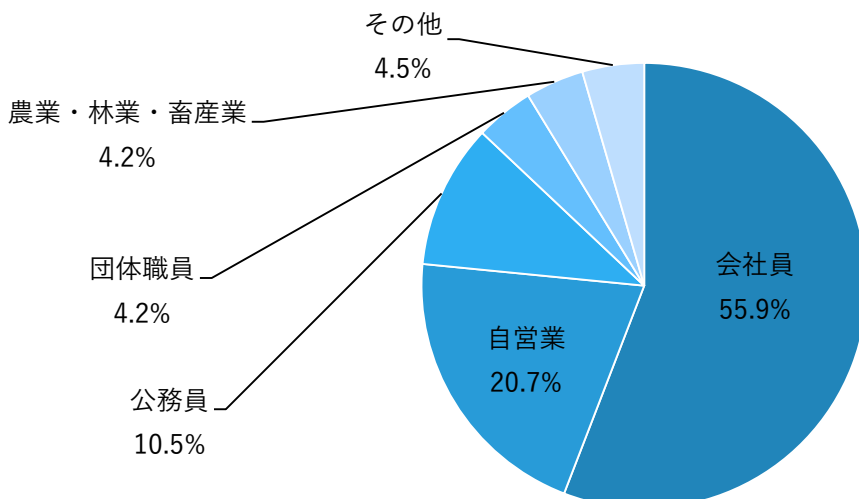
問2 あなたの年齢を教えてください。



問3 あなたの消防団在籍年数を教えてください。



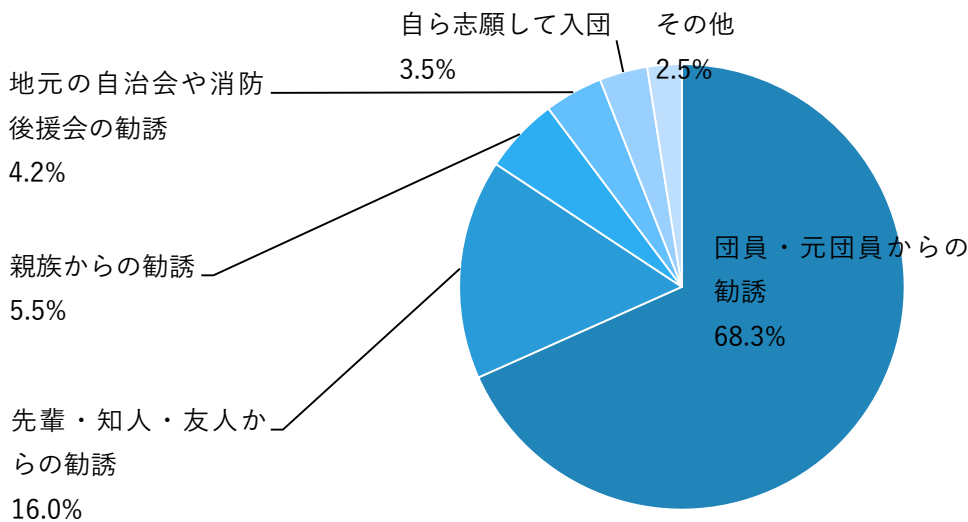
問4 あなたの職業を教えてください。



2. 入団動機と家族の理解

問5 あなたが消防団に入団した動機は何ですか？

「団員・元団員からの勧誘」が68.3%、「先輩・知人・友人からの勧誘」が16.0%、「親族からの勧誘」が5.5%、地元の自治会や消防後援会の勧誘」が4.2%となっています。



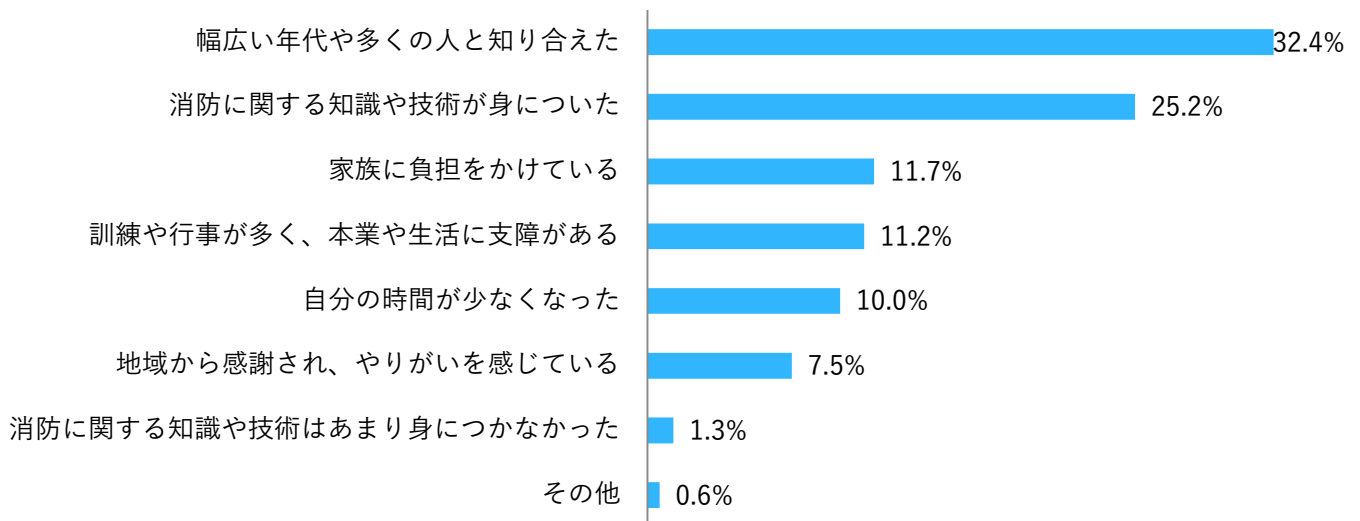
■ その他の意見（抜粋）

- ・ 誘われた。
- ・ 入りたい訳ではなく、勝手に区長に入りたい人がいると指名させられ入るしかなくなってしまった。
- ・ 当時の上司の圧力。
- ・ 準中とれるから。
- ・ 団員がいないので強制的に入団させられた。
- ・ お金がもらえるから。
- ・ 地区のならわしで入るのが決まり事だから。
- ・ 署員が職場にパンフレットを持ってきてすすめてくれた。
- ・ 移住者のため地域に溶け込むいい機会だから。

問6 消防団に入団してどのように感じていますか？（複数回答可）

総計 963 件の回答のうち、最も回答が多かったのは「幅広い年代や多くの人と知り合えた」（312 件）32.4%、次に「消防に関する知識や技術が身についた」（243 件）25.2%、という前向きな意見が多く寄せられました。

一方、「家族に負担をかけている」（113 件）11.7%、「訓練や行事が多く、本業や私生活に支障が出る」（108 件）11.2%、「自分の時間が少なくなった」（96 件）10.0%といった意見も見られました。

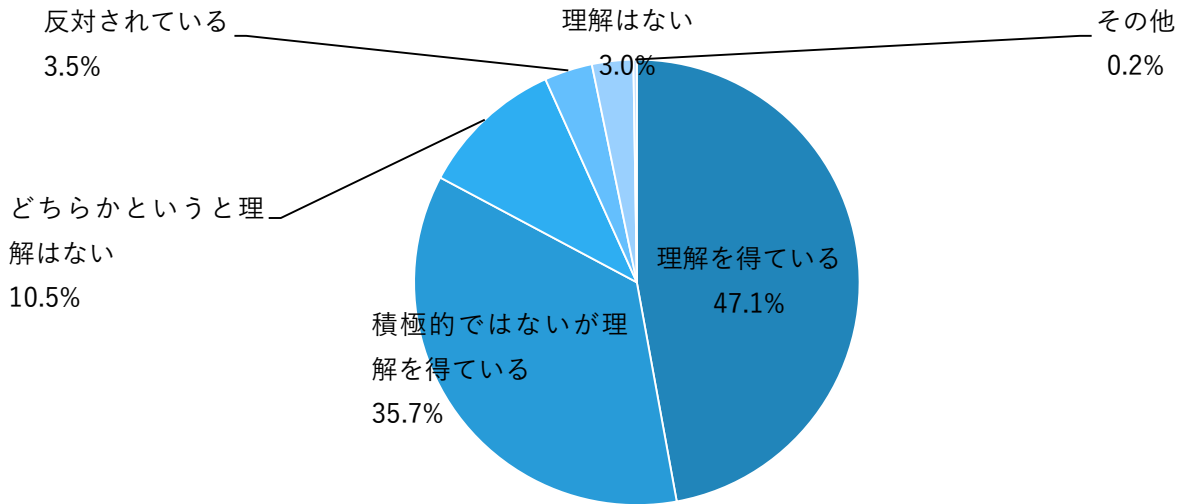


■ その他の意見（抜粋）

- ・ まだ分かりません。
- ・ 行ける時しか行けない。
- ・ 飲み食い旅行など甘い汁も吸える。
- ・ やりがいは感じているが、地域の消防団への理解を得るのが難しいとも思う
- ・ 自営業者なので地元にいるため何かあればすぐ行けるが、団員のほとんどがサラリーマンのため、地元にいる自営業者のみの負担が大きい。
- ・ 地域から感謝されているかは不明でありあまり感心がないのかとも感じる。
- ・ 訓練の出席率が厳しく管理されていることが不満。団員確保のための明確な規約と、市からの積極的な勧誘を求める。無理矢理入団させておいて出席率をとやかく言われたくない。出席率に応じて報奨金が出れば 40 代以上の参加者は増えるかもしれないが、若者は自由な時間を重視するため難しい。消防活動のメリットを理解するのは地域に定住する者のみ。

問7 消防団活動に対して家族からの理解は得られていますか？

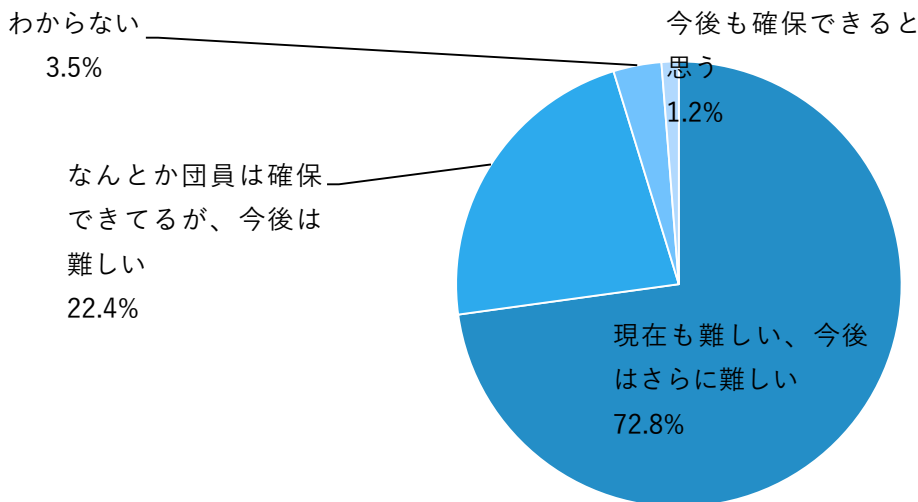
「理解を得ている」が47.1%、「積極的ではないが理解を得ている」が35.7%、「どちらかという理解はない」が10.5%、「反対されている」が3.5%、「理解はない」が3.0%となっています。総計401人のうち、82.8%（332人）が家族の理解を得ています。一方で17.2%（69人）は家族からの理解が不足していると感じています。



3. 消防団員の確保について

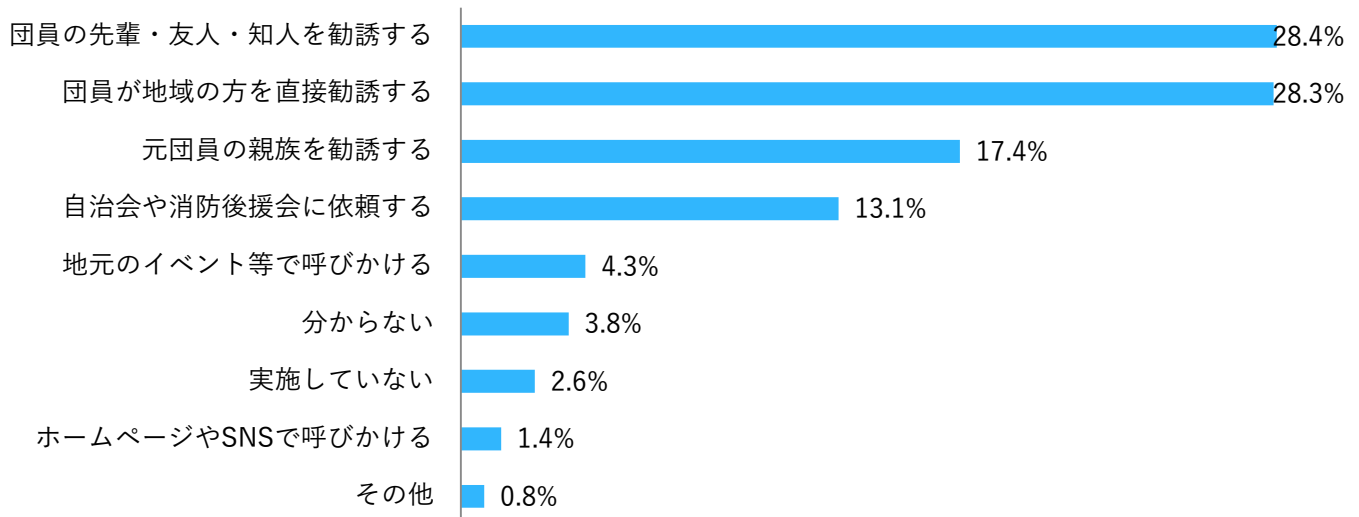
問8 新入団員の確保について、あなたの考えは次のうちどれですか？

「現在も難しい、今後はさらに難しい」が72.8%、「なんとか団員は確保できているが、今後は難しい」が22.4%、「わからない」が3.5%、「今後も確保できると思う」が1.2%となっています。総計401人のうち、95.2%（382人）が新入団員の確保について今後さらに難しくなると感じています。



問9 団員確保の方法として、どのような手段を用いていますか？（複数回答可）

総計 853 件の回答のうち、最も回答を多く得たのは「団員の先輩・友人・知人を勧誘する」（242 件）28.4%及び「団員が地域の方を直接勧誘する」（241 件）28.3%で、これが主要な勧誘手段となっています。次いで「元団員の親族を勧誘する」（148 件）17.4%、や「自治会や消防後援会に依頼する」（112 件）13.1%が多く用いられています。

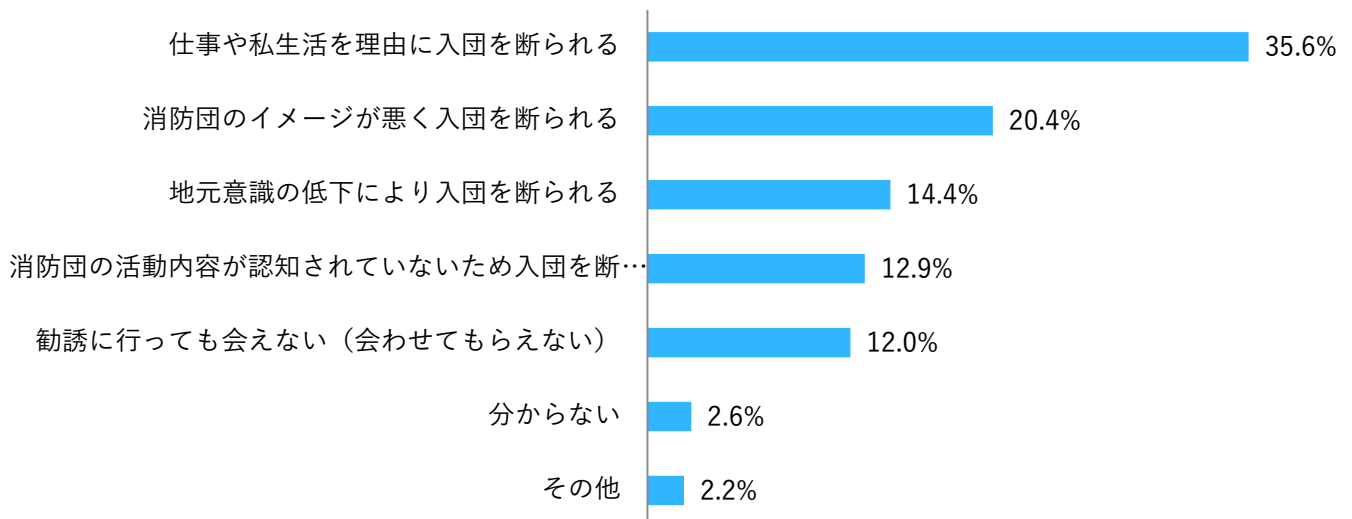


■ その他の意見・要望（抜粋）

- ・ 笠間市の企業誘致
- ・ 笠間市の企業から3年間とか期間をきめて、従業員及び役員などをだしてもら。従業員にも補助、企業にもなにか補助などをして人を増やす。
- ・ 声掛けをしても給料も出ないなら入りたくないと言われる。
- ・ 分団活動負担軽減、団員への報酬確保
- ・ 給料を払う。
- ・ 役所の面接で消防団の興味の有無を訊ねる。
- ・ 後援会が地域にいる若年層を紹介してくれるか、市役所で地域にいる若年層のリストを渡して貰えると勧誘しやすい。自衛隊にはリストを提供するはずなので、その同意をとるときに消防団への提供も同時に取れば分団に提供する事も可能だと思います。ただし今後は地区事の分団ではなくした方が良くと思う。

問 10 団員確保の支障となっていると思われることがあれば教えてください。(複数選択可)

総計 925 件の回答のうち、最も回答を多く得たのは「仕事や私生活を理由に入団を断られる」(329 件) 35.6%で、次いで「消防団のイメージが悪く入団を断られる」(189 件) 20.4%や「地元意識の低下により入団を断られる」(133 件) 14.4%が主要な支障として挙げられています。「消防団の活動内容が認知されていないため入団を断られる」(119 件) 12.9%や「勧誘に行っても会えない(会わせてもらえない)」(111 件) 12.0%も支障として挙げられています。



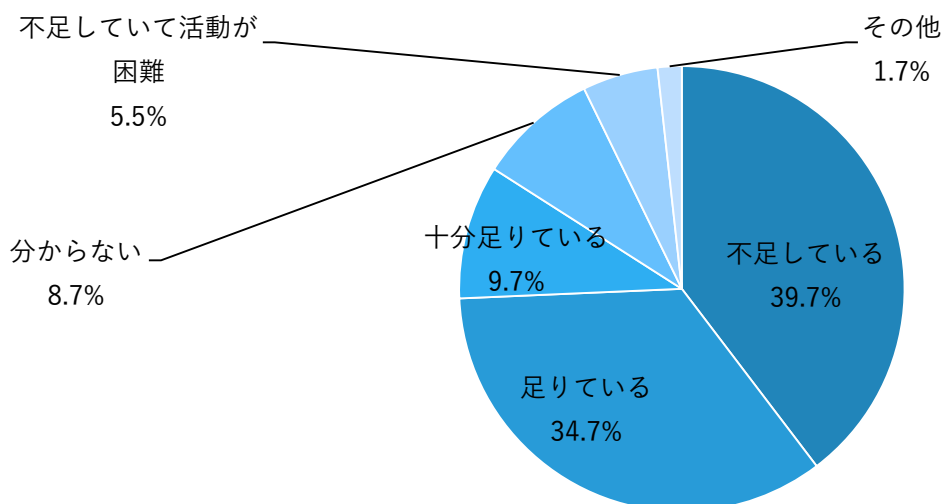
■ その他の意見(抜粋)

- ・ 忙しい、強制的に参加を強いられていると思われる。
- ・ 対象者が地元にはいない。
- ・ 若い年齢層が少ない。
- ・ 昔の消防の悪いイメージがあり断られる酒を飲まされたり歳上の人達との付き合いなど
- ・ 人口減少のため。
- ・ 仕事への支障
- ・ 報酬の少なさ
- ・ 面倒だと思われる。
- ・ 操法大会及び半強制的飲み会による家族負担
- ・ 若いこと面識がなくどのような子がいるかわからない。
- ・ 若い年代では、そもそも消防団を知らない。入団が任意となれば、条件に関わらず入らない
- ・ 活動が認知されているため断られる。
- ・ サラリーマンが多いため地元にはいない。地域の企業に団員になる人を義務づけるなど今後は必要と感じる。
- ・ 自分の時間を削ってまで、消防団活動することにメリットを感じる若い人がいない。むしろ、否定的というか拒否反応をしめされる。
- ・ 報酬が出ることを知らず、完全なボランティアだと思われる。

4. 分団の統合再編について

問 11 あなたの分団の人数は活動に対して足りていますか？

総計 401 人の回答のうち、45.2% (181 人) が「不足している」または「不足していて活動が困難」と感じています。一方で 44.4% (178 人) は「足りている」または「十分足りている」と感じています。

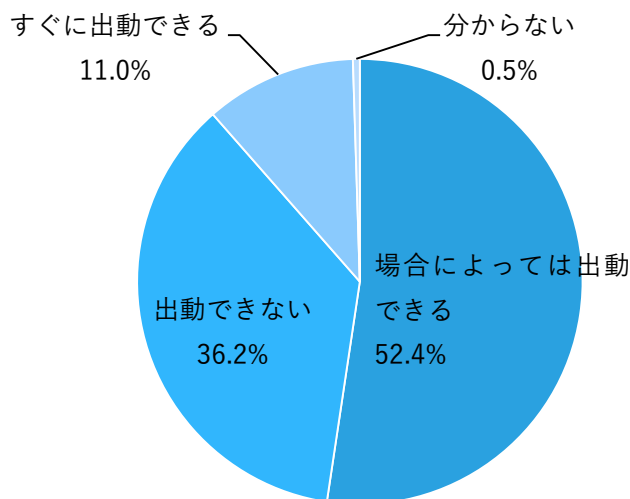


■ その他の意見（抜粋）

- ・ 行事などは参加しているが実際に起きる火事などには人数が不足する。
- ・ 団員数はいるが参加はしないため意味がない。
- ・ 人数は足りているが、出席率が悪い。
- ・ トータルの人数は足りているが参加率が悪い。
- ・ 団員高齢化が進み将来の団員不足が促進されていく。
- ・ 人数は居るが来られない人が多く支障が出る時がある。

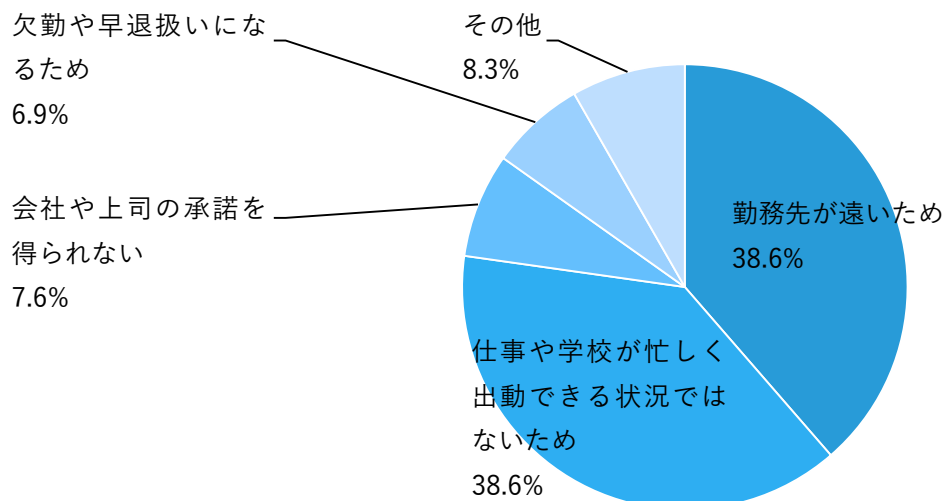
問 12 平日昼間に出動がかかった場合、あなたは出動できますか？

総計 401 人の回答のうち、最も多くの回答を得たのは「場合によっては出動できる」(210 人) 52.4% で、半数以上が状況次第で出動可能と答えています。「出動できない」と答えた人は 145 人 (36.2%) で、約 3 分の 1 が出動困難としています。「すぐに出動できる」と答えた人は 44 人 (11.0%) で、一定数の団員が即時対応可能となっています。



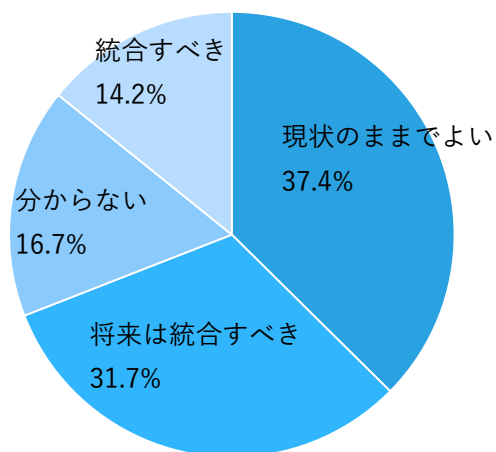
(問 12 平日昼間に出動がかかった場合、あなたは出動できますか？ で「出動できない」を選択した方へ) 出動できない理由は何ですか？

総計 145 人の回答のうち、最も多くの回答を得たのは「勤務先が遠いため」(56 人) 38.6%と「仕事や学校が忙しく出動できる状況ではないため」(56 人) 38.6%で、それぞれ約 4 割を占めています。「会社や上司の承諾を得られない」(11 人) 7.6%や「欠勤や早退扱いになるため」(10 人) 6.9%といった職場の制約も少なくありません。



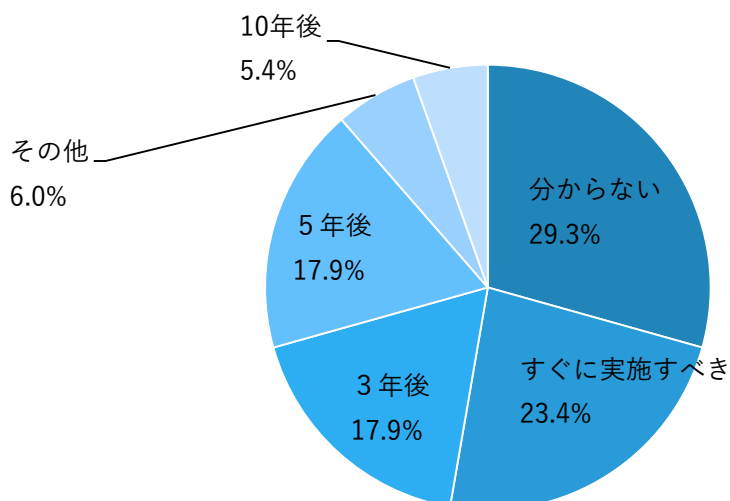
問 13 分団の統廃合についてどう思いますか？

総計 401 人の回答のうち、最も回答を多く得たのは「現状のままでよい」(150 人) 37.4%ですが、現状維持を希望する声が多いことがわかります。しかし、「将来は統合すべき」(127 人) 31.7%と、「統合すべき」(57 人) 14.2%を合わせると、184 人(45.9%)が統合の必要性を感じていることが示されています。全体として、現状維持を望む意見が多いものの、将来的な統合を視野にいった意見も多くあります。



(問 13 で「統合すべき」、「将来は統合すべき」と選択した方へ) 統合する場合の時期は次のうちどれが適当だと思いますか？

総計 184 人の回答のうち、最も回答を多く得たのは「分からない」(54 人) 29.3%で、統合の適切な時期について明確な意見を持っていない人が多いことが分かります。「すぐに実施すべき」と答えた人は 43 人 (23.4%) で、早期の統合を望む意見も一定数存在します。「3 年後」と「5 年後」の回答が 33 人 (17.9%) と同数で、「10 年後」5.4%と答えた方もおり、具体的な時期については多様な意見があることが示されています。

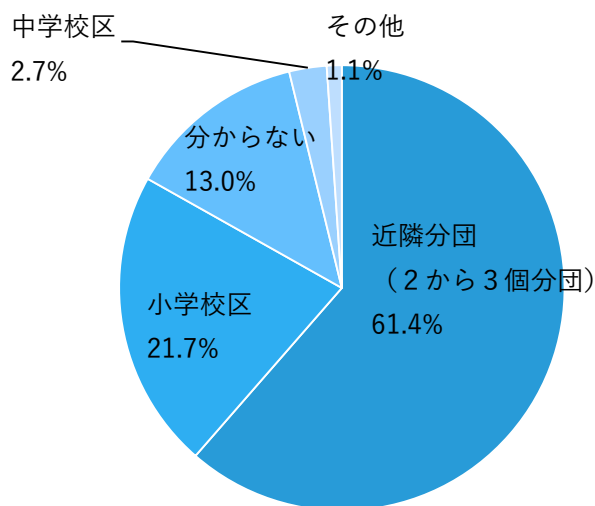


■ その他の意見 (抜粋)

- ・ 随時、定員に満たない時期が続いている団は近隣との調整をすべき。
- ・ 状況によりけりだが、欠員が出ているもしくは幽霊団員がいるのであれば直ちに統合を進めるべきかと。
- ・ 地域ごとの統合は無意味で、自宅で仕事をする人しか出動できない。出動可能な時間帯と場所を確認し、分団の垣根をなくして、災害時に近くのポンプ車に乗って出動できる体制が理想。地域の詰所ではなく役所や消防署にポンプ車を配置し、どのポンプ車にも乗って出動できるようにする。また、本署がポンプ車を現場に移動させ、団員は現地集合で活動する体制にすれば、中型免許を取らせる必要がなくなる。
- ・ 出動要請がきても人数が足りず出動できない事が複数回あるようなら。
- ・ 統合再編する理由を消防団員に説明するべき。予算の問題なのか、人数の問題なのか。統合再編の議論はどこで誰が行っているのか。
- ・ 持ち区のエリアが広がるだけで、人数は一時的な緩和策でしかない。
- ・ 定員の半数近くになったら。
- ・ 統合すべきではない 人口が少ない地域こそ手厚い支援が必要です。
- ・ 何年とかではなく、必要性があるかどうかどう判断するかが大事だよね。減らしたいから…でやってるなら人は集まらなくなると思う。
- ・ 統合後に人数が増えても、今まで人数がいなくてやめられなかった分団員が辞めてしまうと思うので、その部分の対策が必要だと思います。その上での統合という判断ならいいと思います。

(問 13 で「統合すべき」、「将来は統合すべき」と選択した方へ) 統合する場合の規模は次のうちどれが適当だと思いますか？

総計 184 人の回答のうち、最も回答を多く得たのは「近隣分団」(2 から 3 個分団) (113 人) 61.4% で、次いで、「小学校区」(40 人)、21.7% となりました。「中学校区」は 5 人 (2.7%) となり、全体として、統合の規模については、近隣分団を基準とする意見が多く、現実的かつ実行可能な規模として感じていることが分かります。



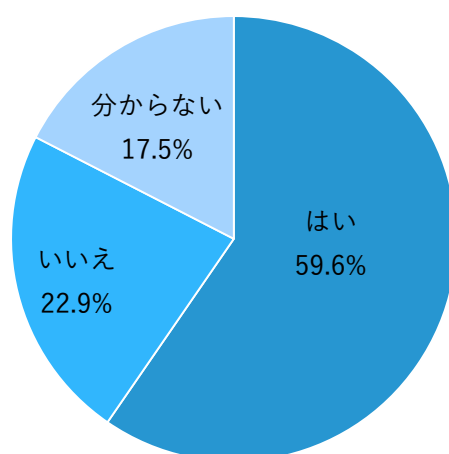
■ その他の意見 (抜粋)

- ・ 地区にとらわれず有事の際に近い場所にあるポンプ車に乗って出動出来るようにするのが良い。そのためポンプ車は、役所や消防に置き共用とした方が良い。
- ・ 地域差があるので一概に言えない。

5. 消防団の車両について

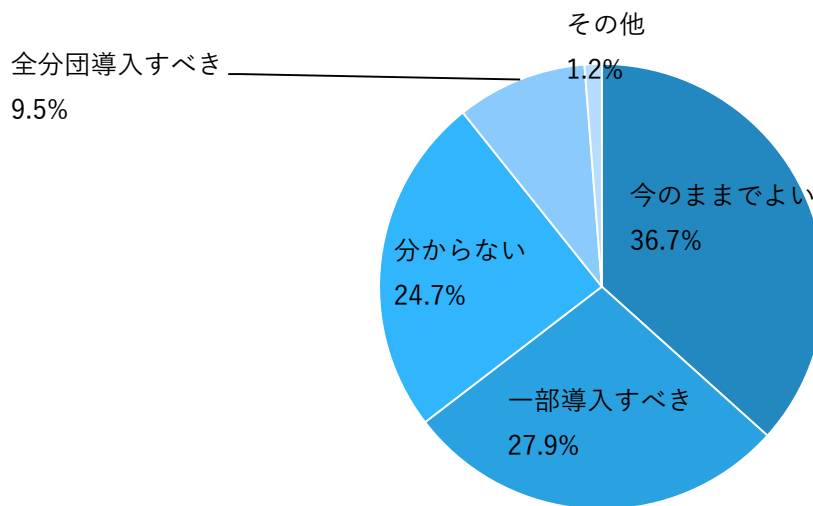
問 14 あなたの分団に配備されている現在のポンプ車の性能に満足していますか？

総計 401 人の回答のうち、最も多くの回答を得たのは「はい」(239 人) 59.6%で、過半数の団員が現在のポンプ車の性能に満足しています。一方、「いいえ」と答えた人は 92 人 (22.9%) で、約 4 分の 1 の団員が性能に不満と持っています。「分からない」と答えた人は 70 人 (17.5%) となっています。全体として、現状のポンプ車の性能に満足している意見が多い一方で、不満を感じている団員も少なくありません。



問 15 今のポンプ車にかわる小型可搬ポンプ積載車の導入についてどう思いますか？

総計 401 人の回答のうち、最も多くの回答を得たのは「今のままでよい」(147 人) 36.7%で、現状維持を望む声が多いことが分かります。しかし、「一部導入すべき」と答えた人も 112 人(27.9%)おり、分団によっては導入を検討する意見も多く見られます。「分からない」と答えた人は 99 人(24.7%)、また、「全分団導入すべき」と答えた人は 38 人(9.5%)で、全体的な導入を支持する意見は少数派です。



■ その他の意見（抜粋）

- ・ AT（オートマ）であれば徐々に変更して行った方がいいと思う
- ・ どちらでもいいが全年齢が運転できる物にするべき。
- ・ 地域によっては良いかと思う。しかし、性能的に中継や水利に問題が出ない範囲であれば。
- ・ 出動に関しては大型が良いが、地域の見廻りをするときには道が狭いため小型が便利です。
- ・ 広範囲の地区を受け持つ分団には、ポンプ車と可搬搭載車の 2 台を配備しても良いかと思う。特に山間部や 3 箇所以上の地区を担当している分団。

問 16 小型可搬ポンプ積載車の利点や懸念について自由に記載してください（任意）

※回答数：61 件

- 小回りが効く：全体の 34% (21 件) が小回りが効いて狭い場所や道路での活動がしやすいとしています。
- 懸念点：全体の 20% (12 件) が懸念点を挙げています。水利の確保が難しい、維持費の負担が心配、初期消火に時間がかかる、使用方法の習得が必要などが含まれます。
- 特定地域での利便性：全体の 15% (9 件) が山間部や狭い道の多い地域での利便性を挙げています。
- 運転のしやすさ：全体の 11% (7 件) が普通免許で運転できることや運転がしやすい点を挙げています。
- 運搬と作業：全体の 8% (5 件) が可搬ポンプの運搬には人数が必要で、ポンプ車の方が利便性が高いとしています。
- コストの利点：全体の 7% (4 件) が費用が安く済む点を挙げています。維持費の負担が少ないことや予算の節約が含まれます。
- その他：全体の 5% (3 件) がその他の利点や懸念を挙げています。例えば、可搬ポンプを自家用車で運ばなくて良い点、災害現場に適している点、道具の積載スペースが少ない点などです。

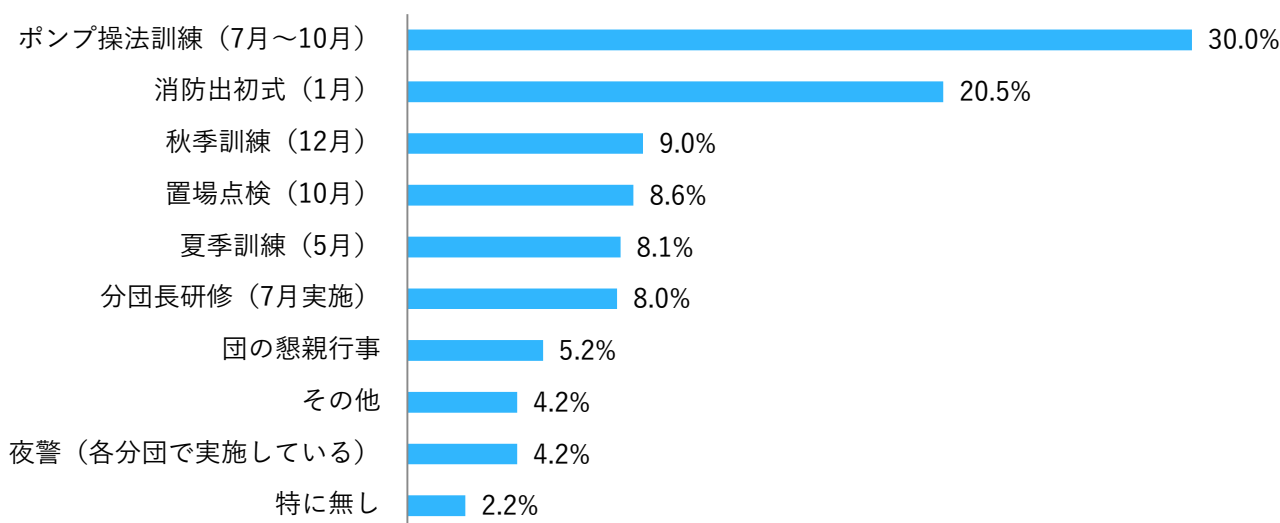
■ 自由記載（抜粋）

- 普通免許で運転できるのが良いと思う。
- 道がいい場所ばかりとは限らないから可搬ポンプを下ろして車をどけたり狭い所へも運び入れられるのでいいと思う。
- 山を抱えている分団は狭い道やポンプ車の入れない小川などの水利に向いているのと、ポンプ車との両方の整備負担軽減になる。
- 小回りがきくので、狭い通路も行きやすい。
- 可搬とポンプ車の能力の違いなど細かいことはよく分からないが、コストが下がるなら導入するべき。
- 狭い山道でも入っていける。
- ポンプ車よりは運転はしやすくなるが、出動時の作業工程が多くなりポンプ車より初期消火に時間が要する。
- 可搬ポンプを移動させるときに重く怪我をするリスクが高い。
- 可搬ポンプは狭い場所等は便利だが、運搬には人数が必要なので、現状のポンプ車でホースカーの方が利便性はいいのかもしれない。
- 山林が多い地域は必要 都市部は不要かと思う。
- 普通免許で乗れるのはいいが使い勝手が悪そう！見た目がダサイ。
- 狭いところでも入っていけそう。小回りがきく。毎回、可搬を下ろすのが大変そう。
- 水利が道路から離れている場合に車輛から下ろして使用できる。自動車免許の問題を緩和できる。
- 軽可搬積載車は狭い道でも対応出来、ポンプ車の給水管が届かない場所の自然水利でも、可搬ポンプを運ぶことにより吸水出来る。
- 機動力、狭隘地でも人力でのポンプの移動が可能。資機材積載容量が少ない。
- 現状のポンプ車の操作もよくわかっていない団員もいる中、新しい物を導入するのはどうかと思う。また、保管する場所が無い

6. 消防団員の負担について

問 17 消防団の行事について、負担を感じているものを3つまで選んでください。

総計 811 件の回答のうち、最も多くの回答を得たのは「ポンプ操法訓練（7月～10月）」（243人、30.0%）で、多くのメンバーがこの訓練を負担に感じています。次いで「消防出初式（1月）」（166人、20.5%）が多く、「秋季訓練（12月）」（73人、9.0%）や「置場点検（10月）」（70人、8.6%）、「夏季訓練（5月）」（66人、8.1%）、「分団長研修（7月実施）」（65人、8.0%）も負担と感じられています。

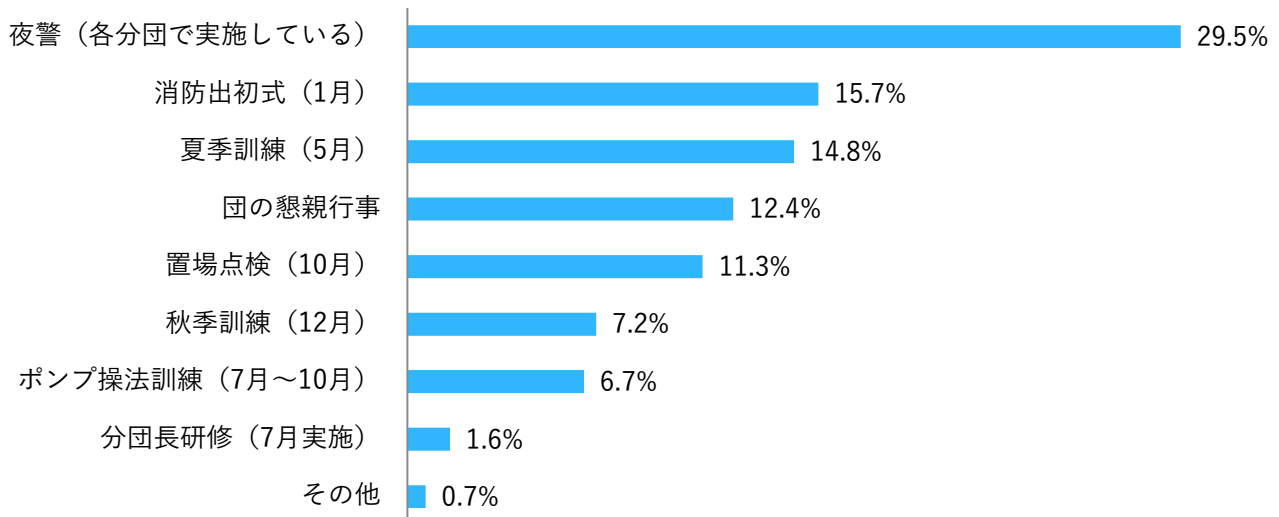


■ その他の意見（抜粋）

- ・ 活動について不満は無い出れるものに参加するスタンスでいます。
- ・ 休みが不定期的なのと仕事終わるのが遅いので、あまりどれも参加出来ていない。
- ・ 秋季訓練の際の出初式の練習は正直、団員のためというより本部員や上の方のために行っているイメージが拭えないです。もう少し改善いただければと感じています。
- ・ 分団長会議
- ・ 昔よりはマシになったが本部員の教育不足。
- ・ 訓練という名の、出初の練習。
- ・ 詰所、防火水槽周りの草刈り。
- ・ 分団長研修へ参加したくない方々多数なので来年から任意にしてもらいたい研修旅行があるため団長になりたくないと言う団員が多過ぎる今からの時代にハッキリ言って研修旅行は無駄です。
- ・ 出初めの練習意味無い。
- ・ 団員同士のプライベート飲み会
- ・ 人間関係・OB

問 18 消防団の行事について、重要であると感じているものを3つまで選んでください。

総計 860 件の回答のうち、最も多くの回答を得たのは「夜警（各分団で実施している）」（254 人、29.5%）で、最も重要と感じられている行事です。次いで「消防出初式（1月）」（135 人、15.7%）、「夏季訓練（5月）」（127 人、14.8%）、「団の懇親行事」（107 人、12.4%）、「置場点検（10月）」（97 人、11.3%）、「秋季訓練（12月）」（62 人、7.2%）、「ポンプ操法訓練（7月～10月）」（58 人、6.7%）と続きます。「分団長研修（7月実施）」（14 人、1.6%）、「その他」（6 人、0.7%）も少数ながら重要と感じられています。

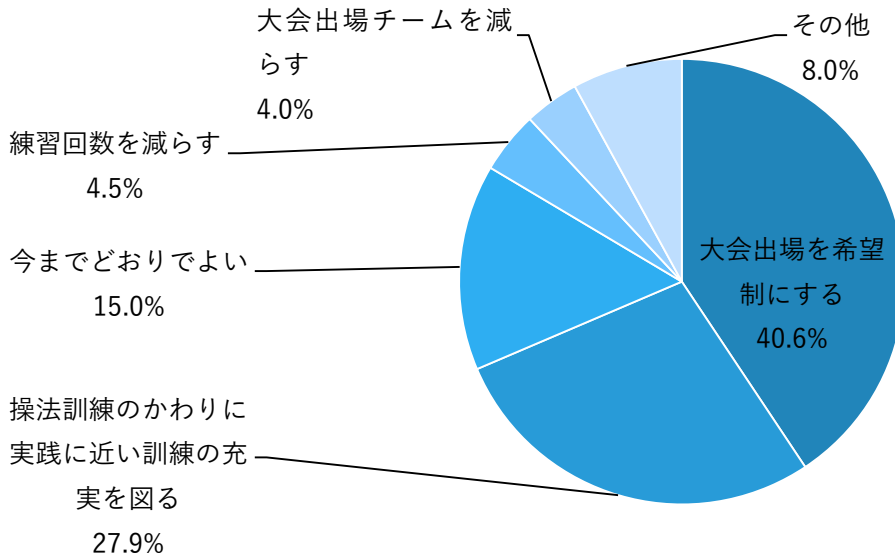


■ その他の意見（抜粋）

- ・ ない。それよりも新入団員の育成を優先すべき。
- ・ 全て重要だと思うが、家庭や仕事で参加できないものはしょうがないと思っている。
- ・ 出火出動
- ・ 通常訓練
- ・ 夏季訓練については、署での少分団ごとの水出し流れ訓練なら。

問 19 ポンプ操法訓練について感じているものを選んでください。

総計 401 人の回答のうち、最も多くの回答を得たのは「大会出場を希望制にする」(163 人、40.6%) で、ポンプ操法訓練の負担軽減を図るための意見が多いことが分かります。「操法訓練のかわりに実践に近い訓練の充実を図る」と答えた人も 112 人 (27.9%) おり、実践的な訓練の充実を求める声も強いです。「今までどおりでよい」と答えた人は 60 人 (15.0%) で、現状の維持を望む意見も一定数存在します。



■ その他の意見（抜粋）

- ・ やる意味がわからない。必要ない。
- ・ 操法大会を無くして訓練を充実する。
- ・ 笠間市から 1 チーム各分団より代表者を募り編成して参加する。
- ・ ポンプ操法訓練は負担が大きすぎる。自身も家族も。
- ・ 消防団の意向でやらなければならないものとされていて負担である。
- ・ 廃止すべき。他の分団が支援金を払うのはおかしい。地元の互助会のお金です。
- ・ 生活が優先なので練習に参加するのは厳しい団員が多いと思う。
- ・ 市概ね今までで良いと考えるが、出場しないのであれば、相応の訓練は必要だと思う。操法に参加した団員は、参加していない団員とは行動が違っていると感じる。
- ・ 必要性が全く感じられない。
- ・ 出場分団には、年間の個人報酬を通常より高くすべし。
- ・ 今の時代にあって合っていないし、練習中に怪我して仕事できなくなったら元もこうもない。
- ・ 操法訓練が嫌で団員が集まらない要因になっている。練習でケガしても補償も無く、仕事に支障がでる。
- ・ 廃止を希望する。行政の自己満足に過ぎず負担が大きい。
- ・ 操法訓練、大会共に時間をとられる。現分団員は共働きだったり地元で働いていない人も多いので負担が大きすぎる。時代的にもわざわざ行う必要はないのではないか。
- ・ 廃止して通常訓練で行う。

7. その他（自由記載欄）

問 20 その他、消防団活動全般において意見がありましたら、自由に記入してください。

※ 注意事項

- 自由記載の記述内容については、原則として原文のまま掲載しています。表現については、あくまでも記入者の主観であることを申し添えます。
- 特定の個人名・団体名が判別できる表現については割愛、または一部修正しています。

【分類と件数】

1. 訓練の負担（18件）
2. 報酬や活動費に対する不満（15件）
3. 分団長の研修・会議への不満（4件）
4. ポンプ操法訓練・大会への不満（9件）
5. 出動体制や人員配置の問題（6件）
6. 分団内部の問題（4件）
7. 行事後の宴会や打ち上げへの不満（1件）
8. 出動手段の改善要望（2件）
9. 団員確保の問題（9件）
10. 訓練内容について（6件）
11. 消防団の存在意義や時代遅れの問題（5件）
12. 辞めることへの困難（4件）
13. コンプライアンスや管理運用の問題（3件）
14. 消防団の将来構想や改革案（3件）
15. 定年制度等の導入提案（3件）
16. 装備の改善要望（2件）

1. 訓練の負担（18件）

- ① 訓練が多過ぎて、活動意欲が減る
- ② 操法訓練は、家族に負担になる。仕事との両立は、難しいです。
- ③ 操法大会は仕事終わりに練習して、家族 心身共に負担が大き過ぎるので廃止すべだと思う。
- ④ 夜景、点検整備、特に訓練後の宴会、打ち上げが半ば強制に近い断り辛い感じになっている。訓練は参加しても宴会に行きたくない時なども何でだの断われない感じにされる。
- ⑤ 秋季訓練でやった内容が出初式当日に変更になる事が多く何のために秋季訓練をやったのかわからない状況がある。
- ⑥ 実践に近い訓練を増やす、全分団でなく少数分団で
- ⑦ 人が減る中で、建前の訓練では無く実践的な訓練を増やして欲しい
- ⑧ 訓練を行う場合3時間より短い時間で行わないと若い子は参加しない無駄な時間を過ごしたくないと言われる
- ⑨ 操法大会は団員の負担が大き過ぎるのと実戦に反映されず本当に無駄であると思います。希望する

分団だけでやって頂きたいです。定例の訓練についても団員個人のレベルアップには繋がらない上に、個人の仕事等の都合により出欠席に偏りが出てしまい団員同士のトラブルにも発展し得ます。なので個人のスキルアップの為にも本所などで個人の都合の良い時に講習を受けられるように定期的に講習日を設けて頂きご指導いただけるような体制が望ましいかと思えます。

- ⑩ 今はまだ負担が大きくて家族に理解が得られない人が多い。今の分団員数と年齢では操法大会は難しい。気候にあわせた訓練日を設定してもらいたい。
- ⑪ 夏と秋の訓練でポンプ操作は覚えられる、出初めとか形式だけのものに休日の団員をつかうな実のあるものだけにしてほしいそうすれば参加率も上がると思う
- ⑫ 全体訓練を減らし各分団で活動すべき
- ⑬ 全体訓練、分団訓練・地域水利点検の拘束時間を 3 時間以内にする。拘束時間が長いと参加出来ないと言われる可能性がある為。
- ⑭ 火災出動した際にすぐに撤収になる事が何度かあると、仕事を抜けて来たり家族との時間を切り上げて来ても虚しさがある。すぐに戻っても職場や家族からいい顔をされない事もある。
- ⑮ 操法大会の練習に出られないと、罪人扱いのように締め上げられる。ある団員から「気持ちがたりない・後輩に示しがつかない」挙げ句の果てに「休んだのだから品物を持って来い」と締め上げられて、多額の飲み物類を団に納めた。現在もトラブルになっている。ここに書いたのは大筋であるが、操法大会の後でも結構なので機会が与えられるならば消防本部にも話を聞いていただきたい。
- ⑯ 夏季訓練は今年度のような個別に行うのは良いと思う。秋季訓練は訓練とは名ばかりの出初式のリハーサルなので意味がない。
- ⑰ 操法大会、置き場点検、出初め式はそれぞれ実践とは目的が離れているように感じ、なるべく減らせる事があれば減らす方向で検討していただきたい。またそれぞれの団によって活動内容に以前の習慣(団費使用方法、旅行、飲酒、)を続けていて関係者以外にはいいイメージを持たれていないように感じるので、時世に合うような改善が必要だと思う。
- ⑱ 人数が少ないので、負担が大きい。また、いつ辞められるかという不安。

2. 報酬や活動費に対する不満 (15件)

- ① 活動費が上がらないものか
- ② 消防活動の負担が大きい割に報酬金額が少なすぎる。日曜しか休みが無いのにそこに訓練等の消防の行事が入るならそれなりの報酬が必要かと。後、平日の昼間の火災の出動は仕事を抜けて出るので出勤報酬が少なすぎる。後、夜間も同じ。
- ③ 意味の無い行事は無くせ(操法大会等)。活動報酬を充実させる。メリットが無ければ今の時代、誰も入団なんかするはずないだろ。
- ④ 団員確保が問題で、地域的なところもあるだろうが半強制的になっている。各分団によって違うとは思いますが、辞めづらくいやいや活動しなければならない。時代の流れで人がいないのは仕方ないけど、やはり報酬を見直し時間を使った分だけの対価が必要かと…地域では難しいので行政から消防団に入ると、これだけ魅力があるみたいな周知があればとおもいます。ボランティア活動ではないので参加するメリットが今以上に必要です。
- ⑤ 活動費の値上げ
- ⑥ 分団数を減らし、維持費を下げ個人報酬を増やすべき。
- ⑦ 拘束時間が長く、時給制や日当制の団員は本職の収入を減らして参加している。団員への報酬は半

強制的に飲み会等へあてられており、団員活動は実質ボランティア活動である。このご時世で団員に地元貢献やボランティア精神で活動を求めることは不可能。市役所の会計年度任用職員並とは言わないが、副業となり得るレベルの報酬と責任を与えるべき。

- ⑧ 後援会費ありきの運営であることが疑問です。各種懇親会会費や備品購入、訓練後の昼食など。ある程度公の活動費として認めていただき、後援会費は廃止すべきだと思います。地域から批判される理由のひとつになっています。そもそも後援会費も任意のものであり、消防団の消化活動とは一切関係ないもののはずです。
- ⑨ 個人に報酬が入ることになり団の収入が減り活動が制限されている
- ⑩ 団員とその家族や職場に対する報酬や特典等が充実すると良いと思います。
- ⑪ 有償ボランティアではあるが、手当を上げないと団員の入団は難しい
- ⑫ 団員報酬を増やしてもらいたい。幽霊団員の団員報酬はいらない。幽霊団員に出すくらいなら出ている団員に回す。
- ⑬ 今の若い人は、仕事が忙しく、給料も安い、ボランティア活動をするなら、賃金が支払われる仕事をした方が良く考える人が多いなか、最低賃金を下回る報酬では、やりたい人など居ると思いますか？ババ抜きのような制度は改めて、団員、担い手に強力なメリットがない限り誰もやりたい、なりたいたとは思えない。制度の見直しを希望します。
- ⑭ 笠間市は他の自治体に比べたら、消防関係には力を入れてくれてるのは理解しています。欲を言えば、団員の優遇を手厚くして欲しい。
- ⑮ 消防団を無くしていきましょう。有り続けていくなら、最低でも、訓練や夜警、地域行事などへの参加回数(率)に応じて報酬を。正直、同分団内でも年間報酬が出てしまうことが気に入らない。基本は0で、そこから積み上げで良い。合わせて退団報酬の見直しも必要。在籍年で出すのは、ズサンすぎる。会社でいったらありえない。ずっと有給休暇を続けてるようなもの。その精査は市から書面で出してくれ、各分団に任せるな。

3. 分団長の研修・会議への不満（4件）

- ① 分団長の研修や飲み会のようなものは必要ないと思う。分団長だけで負担が多いので、更なる負担でしかない。
- ② 分団長研修は本当にいらない
- ③ 現在会計を任されていますが、分団長会議を理由に1回4万円請求されます。そんなに遣いますか？
- ④ 分団長会議の飲み会が不適切だと思います

4. ポンプ操法・大会への不満（9件）

- ① 意味の無い行事は無くせ(操法大会等)。活動報酬を充実させる。メリットが無ければ今の時代、誰も入団なんかするはずないだろ。
- ② 操法訓練は、家族に負担になる。仕事との両立は、難しいです。
- ③ 操法大会は仕事終わりに練習して、家族 心身共に負担が大き過ぎるので廃止すべだと思う。
- ④ 操法大会は団員、家族、後援会全体に負担があり、今の時世と合っていない。そろそろ見直すべき
- ⑤ 操法大会の練習が負担になるので大会辞退をするべき
- ⑥ 操法大会は団員の負担が大き過ぎるのと実戦に反映されず本当に無駄であると思います。希望する分団だけでやって頂きたいです。
- ⑦ 操法大会はメリットが少なく、負担が大きい。このままだと、操法の練習で家庭も職場にも迷惑か

かり支障をきたすことになり、消防団の退団を検討せざるを得ない状況となる。昔と今の考え方は違いが出てる事を認識してほしい。

- ⑧ 笠間市として操法大会への参加を取りやめてほしい
- ⑨ 操法大会、置き場点検、出初め式はそれぞれ実践とは目的が離れているように感じ、なるべく減らせる事があれば減らす方向で検討していただきたい。またそれぞれの団によって活動内容に以前の習慣(団費使用方法、旅行、飲酒、)を続けていて関係者以外にはいいイメージを持たれていないように感じるので、時世に合うような改善が必要だと思う。

5. 出動体制や人員配置の問題 (6件)

- ① 団員数は足りていても昼間の出動人員が全く足りていない！自営業だと仕事がストップしてしまうし出動している時間の遅れを取り戻すのに労力を割かなければなりません。サラリーマン等のお勤めの方も昼間の出動はかなり難しいと思う。対応策として市役所職員のみ消防団を何分団が作ってみては良いのでは？
- ② 土日が仕事のメインの為、各訓練が日曜が多く毎回有給を取り出動している。一般企業かつ歩合制の為、給与に影響がある。その事を分団員および消防職員は理解できているのかが不安。土日休みは当たり前ではありません。団員が集まらない昨今、統合の話をよく耳にしますが、その際に現場で出る話は“いつ引退するか”です。統合は本質的な解決にはなり得ないと感じています。団員の処遇改善(今いる団員を守る)や新規団員を地元のツテだけに頼るのではなく、地域を守る仲間を見つけることに本部ももう少し介入しても良いのではないかと肌感ですが感じています。盛り上げていきましょう。よろしく願いいたします。
- ③ 今後は地域の分団という形を辞めて官公庁や農協、商工会、地元企業等職場事に人員を割り当てその職場にポンプ車を置き有事の際に対応するのが良い、地元と近隣しか出動しないのに地域ごとに置く必要が無い、今は連絡体制も整っているため 20 名ずつ 3 交代出来る 60 名、ポンプ車 6 台有れば市内の火災には全て対応出来ると思う。60 名で一つの団として友部笠間岩間の各地区 20 名配置し、有事の際に出動する。役所の本庁と支所にポンプ車を 2 台ずつ置いておけば日中の火災はかなり早く対応できる。水害等全域に係る災害に対しては別に関しては別に人員を確保する。
- ④ 市の職員は、消防活動で離席しても、給与が減らないときいている。一般企業は、給与は引かれるし、会社は、わかってくれない
- ⑤ 消防署員も消火以外の分団活動に参加いただけないでしょうか。団員も同じく仕事があります。消防署員も分団に参加されても良いのではないかと思います。団員確保も厳しい状況です。
- ⑥ 火災出動した際にすぐに撤収になる事が何度かあると、仕事を抜けて来たり家族との時間を切り上げて来ても虚しさがある。すぐに戻っても職場や家族からいい顔をされない事もある。

6. 分団内部の問題 (4件)

- ① 分団統合により知らない人と活動するのが嫌で辞めていく人が多い現状がある
- ② 後援会など様々な問題があったり消防団活動がやりづらい時代なのかもしれません。私自身、分団長も経験しており、その時は家族よりも分団を優先してまいりました。ですが今の消防団には魅力も感じず、団の中には分団のお金を自分のお金と勘違いしている方もいるのも事実。もっとしっかりした分団体制を整えるべきであると思います。それと操法大会は廃止すべきだと思います。家族があり、選手は勿論大変ですが、それを支える団員もまた大変です。何か違った訓練などがあれば

良いかと思えます。

- ③ 仕事を理由に入団して数年、役員になった事で来るようになった団員、普段は巡回すら来ない、真空スイッチの場所すら解らない団員が増えているので、訓練回数を増やして欲しい。
- ④ 私の所属する分団では、管轄地区外の団員がいます。消防団の後援会費は地区からでており、地区外の団員がそのお金で活動するのは、おかしいと思えます。また、地区外の団員が増えることにより、地域との関係性が薄れてしまい、現在より、団員の確保が難しくなると思えます。消防団の入団条件を住んでいる地区の消防団に限定したり、その地区になんらかのルーツがある、町内会に加入しているといった細かい条件を設定して頂きたいです。

7. 行事後の宴会や打ち上げへの不満（1件）

- ① 夜景、点検整備、特に訓練後の宴会、打ち上げが半ば強制に近い断り辛い感じになっている。訓練は参加しても宴会に行きたくない時なども何でだの断われない感じにされる。

8. 出動手段の改善要望（2件）

- ① 出動を要請する手段をeメールではなく全団員で共有出来る方法に変えるべきである
- ② 火災、災害の際の出動要請の有無を全分団員にSNSなどを活用して通知してほしい。

9. 団員確保の問題（9件）

- ① 集落の世代交代が進まず、団員の確保にも限界がある。組織や活動方法について早期に見直すべきだと感じている。
- ② 団員確保が問題で、地域的なところもあるだろうが半強制的になっている。各分団によって違うとは思いますが、辞めづらくいやいや活動しなければならない。時代の流れで人がいないのは仕方ないけど、やはり報酬を見直し時間を使った分だけの対価が必要かと…地域では難しいので行政から消防団に入ると、これだけ魅力があるみたいな周知があればとおもいます。ボランティア活動ではないので参加するメリットが今以上に必要です。
- ③ 地域の若者が減ってきている。子供が学校を卒業してしまうと勧誘が困難になる。困難に
- ④ 新入分団員確保の案として例えば、税金の優遇等の利点があれば入団時の家族の同意も得やすいのかとおもいます。市と一体となり検討していただきたいと思えます
- ⑤ 市職員への勧誘でも最近では入団を断られる状況、本部からも働きかけをして欲しい
- ⑥ 中学校、高校の体験学習会として企画してもらおうと、若い方の理解が得られ、団員の確保につながるのではと思えます。
- ⑦ 若い団員の確保が難しい。自分の時間を消防団に使うメリットを伝えづらい。説得材料がない。団員報酬では魅力がない。
- ⑧ 入団に対して、入る前からネガティブに考えてしまう人がいると思うので、まずは入団してみよう！とだけ思っただけのようなアピールが必要なのではと思えます。
- ⑨ 団員を確保したいのであれば、小、中学校行事に参加してみたり、役所側も企画考えて工夫したらいいと思えます

10. 訓練内容について

- ① 秋季訓練でやった内容が出初式当日に変更になる事が多く何のために秋季訓練をやったのかわからない状況がある。

- ② 実践に近い訓練を増やす、全分団でなく少数分団で
- ③ 人が減る中で、建前の訓練では無く実践的な訓練を増やして欲しい
- ④ 夏と秋の訓練でポンプ操作は覚えられる、出初めとか形式だけのものに休日の団員をつかうな実のあるものだけにしてほしいそうすれば参加率も上がると思う
- ⑤ 訓練が徹底していない
- ⑥ 通常訓練に本部や消防所の方が来たり団員が署の行き本場の消火活動さながらの訓練をする

11. 消防団の存在意義や時代遅れの問題（5件）

- ① 消防団というものが不必要になっているのかと思います
- ② 申し訳ないが、組織のレベルが民間会社の20年前の感覚で成り立っており時代遅れ。コンプライアンスを徹底するのであれば、団で金を管理するのではなく必要なものは全て市から支給すべき。管理運用する人のレベルも低い。
- ③ 正直、存在理由が分からない。警備会社等に委託しても良いのでは？
- ④ 団員の意識の差があり、優先順位の判断が各自違う。極力優先して欲しい（特に火災発生時、訓練時）
- ⑤ 消防団活動の姿勢の違い。後輩たちは飲むことが消防団と思っている子たちもいる。先輩方はメリハリが効いている活動をしていると思う。やはり、現場で対応力をつけたほうが良い。操法大会では規律など古い様に感じる。

12. 辞めることへの困難（4件）

- ① 辞めたい
- ② 辞めれない。困っています。
- ③ 辞めさせてもらえない。今すぐにでも辞めたい
- ④ 幽霊団員になると悪い評判になる

13. コンプライアンスや管理運用の問題（3件）

- ① 申し訳ないが、組織のレベルが民間会社の20年前の感覚で成り立っており時代遅れ。コンプライアンスを徹底するのであれば、団で金を管理するのではなく必要なものは全て市から支給すべき。管理運用する人のレベルも低い。
- ② 後援会など様々な問題があったり消防団活動がやりづらい時代なのかもしれません。私自身、分団長も経験しており、その時は家族よりも分団を優先してまいりました。ですが今の消防団には魅力も感じず、団の中には分団のお金を自分のお金と勘違いしている方もいるのも事実。もっとしっかりした分団体制を整えるべきであると思います。
- ③ 本部員への互助会費という名の上納金を廃止してほしい。

14. 消防団の将来構想や改革案（2件）

- ① 今後は地域の分団という形を辞めて官公庁や農協、商工会、地元企業等職場事に人員を割り当てその職場にポンプ車を置き有事の際に対応するのが良い、地元と近隣しか出動しないのに地域ごとに置く必要が無い、今は連絡体制も整っているため20名ずつ3交代出来る60名、ポンプ車6台有れば市内の火災には全て対応出来ると思う。60名で一つの団として友部笠間岩間の各地区20名配置し、

有事の際に出動する。役所の本庁と支所にポンプ車を 2 台ずつ置いておけば日中の火災はかなり早く対応できる。水害等全域に係る災害に対しては別に関しては別に人員を確保する。

- ② 消防署員も消火以外の分団活動に参加いただけないでしょうか。団員も同じく仕事があります。消防署員も分団に参加されても良いのではないかと思います。団員確保も厳しい状況です。

15. 定年制度等の導入提案（3件）

- ① 定年制の導入、10年間の徴兵制導入
- ② 40歳程度までの定年制は必要かと
- ③ 消防団も定年制度を取り入れる。

16. 装備の改善要望（2件）

- ① ポンプ車をオートマ仕様にしてほしい。
- ② 詰所への盗難が各所で発生しているので各分団ダミーの防犯カメラ等の支給をお願いします